

ぜん きょう じ
善巧寺報

7 月号



月刊 ● 善巧寺報

〒344-0032 埼玉県春日部市備後東4丁目1番17号
TEL 048(734)7660 榎本明覚



▼二〇一八年七月一日▲

しんらん散歩

～ 枕石寺 ～



定例法座

毎月 十一日

◎七月十一日(水)午後二時

～四時

於 善巧寺 本堂

「一味の海」

ちようど七月のお盆頃、第三週月曜日は海の日という祝日になりました。善巧寺のある埼玉県は海なし県であります。親鸞聖人は「海」という言葉を使いますが、親鸞聖人は「海」としてよく用いられたのでした。川には様々な流れがあり、よどんだ川もあれば、清流もあります。どのような川であつても最終的には海に辿りつき、同じ塩味になります。仏の大海の如き慈悲を聞かせていただくと、置かれている環境や地位、さまざまな差異を越えて、一味の安らぎを得ると言われるのです。「尽十方無碍光の 大悲大願の海水に 煩惱の衆流帰しぬれば 智慧のうしおに一味なり」『高僧和讃』

みほとけ会月例会

◎七月二十六日(木)午後一時

～三時

於 豪徳寺 改札南隣ビル三階・ロージナホール(二階に牛井「すき家」が入っているビルです。)

会費 五〇〇円

『大乘仏教の歴史』

天親菩薩以降、インド仏教は部派、大乘ともにますます盛んに研究が行われますが、西アジアからはイスラム教が、またインド南部からはバラモン教を元としたヒンドゥー教の勢力が強まっています。仏教においては、ヒンドゥー教の呪術的要素を積極的に取り込んだ密教という動きが現われます。密教とは本来「文字によらない教え」を言い、瞑想の実践と戒律による行いの抑制、正しい心のありようを身につけることによって、仏と同一となるという即身成仏の教えです。しかしながらこうした運動も仏教再興にはつながらず、インドにおける仏教は衰退していくのでした。

◆◆春日部だより◆◆

◎七月になる前に梅雨明け。厳しい暑さで寝苦しい日が続いております。子供たちは青空の下、元気に遊び回っています。大人としては水不足も心配ですね。

◎今年もお盆の季節が参りました。「もうお盆が来たの!?!」と一年が経つ早さに驚く今日この頃。「ポーツと生きてんじゃねえよ!」とチコちゃんに叱られそうです。*

*好奇心旺盛でなんでも知っている五歳の少女・チコちゃんが、岡村隆史をはじめとする大人の解答者たちに、「いつてらっしゃーいって別れるとき、手を振るのはなぜ?」「かんばーいってするときグラスを力チンとするのはなぜ?」といった、素朴かつ当たり前過ぎてかえって答えられないような疑問を投げ掛け、正解できなかった大人は、顔を真っ赤にして目から黄色い炎を出しながら頭から白い湯気を汽笛音と

ともに噴き出すチコちゃんに「ボーっと生きてんじゃねえよ!」と叱られてしまうという雑学番組 毎週金曜日午後七時五十七分からNHK総合テレビで放送中です。北海道の浄生寺さまに教えて頂きました。

◎例年お盆参詣に伺わせて頂いているお宅には参詣日時を記したお手紙を同封いたしております。ご確認のほどよろしくお願いいたします。

◎毎月豪徳寺駅前で開催しております「みほとけ会」。九月からは、曜日を日曜日に変更。東急世田谷線 宮の坂駅前のCafe・Luanaを会場に心機一転、「仏教の見方で世界が広がる・ポジティブつきょうう」をメインテーマにやさしい仏教講座を開講いたします。詳細は次号にてお伝えいたします。

箱根 親鸞聖人慈悲の像前 戦没学徒追悼法要



戦争という時代の潮流に遭い、志半ばにして亡くなられた学徒を痛み、また戦地に送り出した者としての贖罪の思いで、日大教授 小松雄道氏が発起され、箱根神社境内に建立された「親鸞聖人慈悲の像」。

本年も像前にて追悼法要を営みます。

終戦から七十三年、風化しつつある記憶を紡ぎ、次代に再び惨禍を味わわせないために、どうぞご参拝下さい。

日時・八月二日(木)正午

参拝懇志・一万円

小田原からレンタカーで参ります。参拝ご希望の方は善巧寺までお問い合わせください。